

総 会

昭和42年度総会は6月3日(土)大分市の県立図書館で開かれました。出席者約50名。会員の研究発表は次の通りでした。

明治中期における大分県の民俗芸能 染 矢 多喜男

小一郎神について 佐 藤 暁

長州征伐における天領の課役

——豊後国直入郡12カ村の場合——

佐 藤 満 洋

ワインマンの植物図譜とチチング 高 山 虔 三

ついで、羽田野清氏が議長となり、総会が開かれました。渡辺委員

長・立川常任委員から、昭和41年度会計報告・事業報告があり、承認

次に、昭和42年度予算案承認。事業計画としては、(1)講演会・研究会

の開催。(2)機関誌46、49号の続行。(3)大分県地方史料双書の続刊。(4)

実地見学旅行の実施。(5)文化財・庶民史料の調査促進。(6)「大分県の

歴史と文化」の刊行に協力。の原案が承認されたほかに、御香重徳氏

から、観光バスガイドの案内に誤りが少なくないので、会として注意

を与えるべきではないか、との提案があつて、活発な討論がなされた

結果、会社側から依頼があれば、史実の間違った点は訂正してあげる

がよいとの結論となりました。欠員中の常任委員には、大分工専の野口喜久男氏が選出されました。

引続いて、大分県立芸術短期大学教授、中野幡能先生の「八幡宮の創祀」と題する公開講演がありました。

編集後記

執筆者が固定した傾向が強いたので、この号は民俗特集にする方針でした。必ずしも編集方針を貫くことができずしてしたが、富来・安部・佐藤・松岡氏などが執筆下さり、藤原氏が多忙な公務を割いて寄せて下さるなど、生新の気をとつかえしえたと思います。

渡辺委員長から誌面が堅苦しくならないようにと、御注意をうけていました。どうもこの面が改善されていませんのは、編集者の不手際だと深く御詫び致します。

内容や執筆者の顔ぶれを多彩にすることは、本誌の発展のためには不可欠です。地方在住の方々にお願ひしますが、論説・研究ノートでなくとも、資料報告や雑報などに興味深いものをお持ちだと思ひますから、御遠慮なく投稿して下さい。

原稿は8月上旬に集まりましたが、印刷所の都合で発行が遅くなりました。遅延をお詫びします。